

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 4. 2

下水道機構の『新技術情報』 第40号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇
今朝は通勤途中に、真新しいスーツに身を包んだフレッシューズの方を見かけました。
?年前の、緊張でカチンコチンだった入社式を思い出しました。今日から新年度。初心忘
るべからず、『今年度も頑張るぞー』と気持ち新たに気合をいれて出勤した次第です。
さて、今年度最初の機構メールマガジン『新技術情報』第40号をお届けします。
どうぞ今年度もよろしく願いいたします。

■□■■□トピックス□■■□■

★インフォメーション

- ・3月12日(月)～17日(土)第6回世界水フォーラム報告！
- ・人事異動、組織変更、退職に伴うWeb登録の変更手続きについて

★機構の動き

- ・今週は、4月1日付で人事異動がありました

★Tea Break

- ・機構イズム (下水道機構 吸収男児さんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

- ・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。
情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

★国からの情報

- ・3月29日付け及び号外下水道ホットインフォメーションです

インフォメーション (最新の話題です)

●3月12日(月)～17日(土)第6回世界水フォーラム報告！

当機構技術評価部の永橋副部長が出席しました。その報告についてお届けします。

=====

「Time for Solutions— 水問題解決のとき—」のテーマを掲げ、第6回世界水フォーラムが、3月12日から1週間、フランス・マルセイユ市のパーク・シャノ・コンベンション・センターで世界180カ国以上から約2万人が参加し開催されました。開会式場の舞台上は、和太鼓をベースとした神秘的な音楽をバックに、フランスの子供たちのパフォーマンスに加え、後ろのスクリーンには、水の重要性を訴える各国の状況を映し、水の大切さを再認識させる感動の幕開けとなりました。

この、世界水フォーラムは、世界最大の水に関する国際会議で、水に関する国際政策を、包括的に検討しているシンクタンクである「世界水会議」とホスト国政府が主催しており、3年に一度、国連の定める「世界水の日（3月22日）」前後の約1週間に開催され、展開される議論、発信される成果は、国際社会における水問題への取り組みの方向性を与えるものです。

今回は、平成27年に韓国のテグ広域市で開催予定です。今回、palais phoc?en (Hall 3) 内にある日本パビリオンでは、「和・絆・巧」をテーマとして、(1) 水処理・再生技術、耐震技術等、世界をリードする日本の技術の発信 (2) 水と衛生、環境、防災等の分野における日本の国際貢献の実績紹介 (3) 東日本大震災への対応の紹介と復旧・復興状況の発信及び各国からの支援への謝意など、国土交通省、日本下水道協会、日本貿易振興機構や民間企業などが様々な取り組み、製品を展示・紹介をいたしました。

14日には、Palais des congr?ss (PC16 Riou) において、(社)日本下水道協会と国土交通省主催の「再生水利用セッション」で香川県多度津町の事例などを紹介いたしました。

また、2012年度ミス日本「水の天使」の酒井美帆さんも参加し、日本の取り組みを紹介するために各国のパビリオンを和服で訪問するなど大活躍されました。

●人事異動、組織変更、退職に伴うWeb登録の変更手続きについて

人事異動、組織変更、退職等によりメールアドレスの変更や専用サイト登録の抹消などWeb登録を変更する必要がある場合には、お手数をお掛けしますが、下記の手続きをお願いいたします。

(1)メールアドレスの変更

・ご本人のメールアドレスが変更となる場合は、ご登録種別(メルマガ、専用サイト)及びアドレス(新・旧)をメールでご連絡下さい。

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

(2)メルマガ配信停止

・メルマガ会員の方は、当機構ホームページ(TOP)で「メルマガ配信解除」をクリックし、手続きをお願いいたします。

(3)専用サイト登録の抹消

・専用サイト(公共団体、出捐団体等)にご登録いただいている方で、退職される方、または、専用サイト登録の抹消をご希望される方は、専用サイトログイン後、「退会手

続き」をクリックし、手続きをお願いいたします。なお、退会後も引き続きメルマガの配信は可能です。メルマガをご希望される場合は、専用サイト退会后、当機構ホームページ（TOP）で「メールマガジン新規登録」をクリックし、手続きをお願いいたします。

※(2)、(3)について、メールでご連絡いただくことも可能です。

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

機構の動き （機構の行事予定です）

●今週は、4月1日付で人事異動がありました

新年度を迎え、当機構においても人事異動がありました。今回は6人の職員が機構を卒業し、7人のニューフェースを迎えました。平成24年度も職員一丸となって邁進してまいりますので、皆さまどうぞよろしくお願いいたします！

異動の内容は下記のとおりです。

【転入者】（ ）内は、前職です。

技術評価部 審査調査員 伊藤仁士（中日本建設コンサルタント(株)）
研究第一部 部長 尾崎 正明（国土交通省国土技術政策総合研究所）
研究第一部 副部長 坂部 康理（名古屋市上下水道局）
研究第二部 副部長 伊藤 雄二（東京都下水道局）
研究第二部 副部長 城間 菊次（横浜市環境創造局）
資源循環研究部 総括主任研究員 岩見 博之（(株)クボタ）
資源循環研究部 総括主任研究員 福沢 敬三（(株)日水コン）

【転出者】（ ）内は、異動先です。

技術評価部 審査調査員 深尾 俊示（中日本建設コンサルタント(株)）
研究第一部 部長 森田 弘昭（国土交通省国土技術政策総合研究所）
研究第一部 副部長 松葉 秀樹（名古屋市上下水道局）
研究第二部 副部長 竹内 徹也（横浜市環境創造局）
資源循環研究部 総括主任研究員 南 政慶（(株)クボタ）
資源循環研究部 主任研究員 浦部 幹夫（(株)日水コン）

【異動】（ ）内は、前職です。

技術評価部 副部長 吉川 静雄（研究第二部 副部長）

●4月12日(木)17:00～18:00（場所：機構8階中会議室）

第 303 回 技術サロン

テーマ：「東京の高度防災都市づくりに向けた新たな取組について」

ゲスト：東京都下水道局 計画調整部 計画課長 巖岩滋之氏

※参加申込はコチラ→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-303.htm>

●4月26日（木）15：00～17：00(場所：横須賀市役所)

平成24年度 第1回 横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画に関する
検討委員会

Tea Break (機構職員の感じるまま)

●機構イズム (下水道機構 吸収男児さんからの投稿です)

昨年6月に始まった雑感コーナーは当機構職員が持ち回りで書いておりますが、一巡する前に新年度を迎え、偶然新年度が一番バッテリーを勤めさせていただくこととなりました。

機構に在籍してちょうど一年が過ぎましたので、その中で感じたことを記してみます。

まずは、よく働きよく遊ぶアクティブな職員が多いことです。働きの部分はメルマガで紹介される活動内容に反映されておりますので省略いたしますが、スポーツでは、下水道健康駅伝を始め、ゴルフやスキーなど、連れ立ってスポーツをする機会が年間を通して企画されます。また大会に付随して、練習と称する分科会？も数多く存在し、何らかの活動に参加される方がほとんどです。

次に'呑みニケーション'を活用する文化が発達していること。もちろん下戸の方もおられますが、杯を渡せば断ることはあまりなく、自称たしなむ程度にお酒を楽しまれる方が多いようです。仕事の合間を縫って、部内に限らず、いつの間にか集まって飲みに行くことがあります。ただし、先に紹介したスポーツ活動の後にも呑みニケーションが実行されることが多く、消費した分を大幅に上回るカロリーを消費する方がいらっしゃるの少々困りものです。

この呑みニケーションですが、50名弱の職員があらゆる分野から集結している機構の潤滑油としてうまく機能しているように思います。会話を通じて新しいアイデアが生まれることもありますし、部を超えた交流のきっかけとなり、様々なことを知ることができます。

さて、本年度も新たな職員が入ってきます。どのような出会いがあるのか今から楽しみですし、交流の中から多くのことを吸収して行けたらと思います。職員を始めご覧の皆様、本年度もほどほどな呑みニケーションによるご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

みなさまのコラム (皆様からお寄せいただいた情報です)

水循環・再生水	4 件
その他	2 件
他機関	111 件

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○第6回世界水フォーラムが開催されました【下水道企画課】

●札幌市下水道事業における地球温暖化対策推進計画を策定!!【札幌市】

=====

○第6回世界水フォーラムが開催されました【下水道企画課】

3月12日からの一週間、フランス・マルセイユで第六回世界水フォーラムが開催されました。

国土交通省からは、奥田副大臣、佐藤技監をはじめ、国総研下水道部植松対策官、本田補佐などが参加しました。

下水道関係では、3/14（水）に、国土交通省、(社)日本下水道協会の主催により、セッション「発展途上国及び先進国の水不足の地域における下水再生水利用」が開催され、佐藤技監の開会挨拶の後、香川県丸尾多度津町長が再生水利用の事業化の経験を講演したほか、米国、中国の学識者が再生水利用の取り組みを紹介、ブルーノ・ティセランド氏（ISO/TC224 委員長、Veolia）が国際標準化の意義についての講演を行いました。その後、国総研堀江下水道研究部長をモデレータとして、上記講演者に船水教授、藤木氏等加えたパネルディスカッションが行われ、再生水利用の普及にあたっては、利用者が安心して使えることが重要であり、そのための国際標準などの共有フレームワークが極めて重要と決議されました。また、J S C（日本サンテーションコンソーシアム）、J S W A（日本下水道協会）等のコミットメントが紹介されました。

3/13（火）には、フランスのセーヌノルマンディ水管理庁主催による"Rainwater Management"のセッションが開催され、国土交通省植松対策官から、都市の総合的な浸水対策の取組の背景、計画論、財源構成について紹介しました。今後とも、日本が、都市浸水対策について、リーダーシップを取ることへの期待が述べられました。

さらに、今回の水フォーラムでは、ミス日本「水の天使」の酒井美帆さんが着物姿で参加し、抜群の集客効果を発揮し商談等の活性化に貢献するとともに、各国要人を惹きつけることによりG C U SとJ E T R Oの連携ブースのプレゼンスの向上が図られました。本ブースでは、G C U S事務局である下水道協会のスタッフが、日本企業を代表して、日本の技術のプレゼンや海外からの問い合わせに対応し、ネットワークづくりに尽力しました。

するとともに、本邦企業による水ビジネスの海外展開を支援するため、下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）を H24 年度も実施します。

本プロジェクトでは、(1) 下水汚泥固形燃料化技術、(2) 下水熱利用技術（未処理下水の熱利用に限る。）、(3) 栄養塩（窒素）除去技術（水処理に係る技術は除く。）、(4) 栄養塩（リン）除去技術（水処理に係る技術は除く。回収技術を含むことは可。）に係る革新的技術について、実規模レベルのプラントを設置して実証を行うため、事業の提案を募集し、下水道革新的技術実証事業評価委員会による厳正な採択審査を行い、実施事業を以下の通り決定しましたので、お知らせします。

（※ B-DASH プロジェクト：Breakthrough by Dynamic Approach in Sewage High Technology Project）

(1) 「温室効果ガスを排出しない次世代型下水汚泥固形燃料化技術」

実施者：長崎市・長崎総合科学大学・三菱長崎機工株式会社 共同研究体

実証フィールド：長崎市東部下水処理場

(2) 「廃熱利用型 低コスト下水汚泥固形燃料化技術」

実施者：JFE エンジニアリング株式会社

実証フィールド：松山市西部浄化センター

(3) 「管路内設置型熱回収技術を用いた下水熱利用に関する実証事業」

実施者：大阪市・積水化学工業株式会社・東亜グラウト工業株式会社 共同研究体

実証フィールド：大阪市海老江下水処理場

(4) 「固定床型アナモックスプロセスによる高効率窒素除去技術に関する技術実証事業」

実施者：熊本市・地方共同法人日本下水道事業団・株式会社タクマ 共同研究体

実証フィールド：熊本市東部浄化センター

(5) 「神戸市東灘処理場 栄養塩除去と資源再生（リン）革新的技術実証事業－KOBE ハーベスト（大収穫）プロジェクト－」

実施者：水ing 株式会社・神戸市・三菱商事アグリサービス株式会社 共同研究体

実証フィールド：神戸市東灘処理場

※詳しくは下記URLをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000156.html

○潜熱回収型ガス給湯器等ドレン排水の取扱いを公表

潜熱回収型ガス給湯器等によるドレン排水の取扱いは地方公共団体毎に異なり、また、「規制・制度改革に係る方針（平成23年4月8日閣議決定）」において、そのドレン排水の取扱いを自治体が定めるための参考となるガイドラインを国が策定することとされています。

国土交通省では、各地方公共団体において、当該ドレン排水の取扱いの方針や考え

方を検討する際の参考となるガイドラインを策定するため、(社)日本下水道協会と共同で、排水設備等制度調査専門委員会(委員長:中坪雄二東京都下水道局施設管理部排水設備課長)の下に、潜熱回収型給湯器ドレン排水取扱検討委員会を平成23年度に設置し、その審議の結果、「潜熱回収型ガス給湯器等のドレン排水の取扱い」がとりまとめられました。

各地方公共団体におかれましては、今後ドレン排水の取扱いを定める際に本取扱いを参考として下さい。

※本取扱い本文については、下記URLをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000157.html



下水道ホットインフォメーション(号外2、国からの最新情報です)



○民間事業者による下水放流水熱利用手続ガイドラインを通知・公表

経済産業省調査において、未利用エネルギー活用の地域冷暖房は、通常の地域冷暖房に比べ約1割の省CO₂・省エネ効果を有するとされている中、下水は安定的かつ豊富に存在する点で、今後の低炭素まちづくりに向け、貢献ポテンシャルは大きいといわれています。

その一方で、下水熱利用手続については、現行下水道法等において明記されておらず、民間事業者等からは、利用に係る事前協議や手続に時間を要する等の指摘を受けており、平成23年4月には「下水熱を利用した熱供給を行う際に必要となる手続やルールを明確化・簡素化する」との方針が閣議決定され、その後、平成23年8月の経済産業省の「まちづくりと一体となった熱エネルギーの有効利用に関する研究会」において、

- ・下水道施設への接続要件、配管の材質等の技術的な運用ルールの明確化
- ・利用前後の温度差・流量基準、下水熱利用に係る使用料金の考え方の明確化

等の指摘を受けたところです。

今回策定する標記ガイドライン・標準下水道条例においては、これらの指摘等を踏まえ、

- ・下水熱利用設備の下水道施設への接続に係る許可手続、許可申請に至る事前手続の明確化、競合した場合における調整方法の提示
- ・利用可能流量、利用可能温度差、将来的な下水道整備計画等民間事業者が事業計画策定に当たり必要な情報の提供又は調査協力、対応窓口の設置
- ・下水熱利用設備の位置・構造、工事の実施方法等に係る技術的要件、許容温度変化値設定の基本的考え方の明示

等の措置を講じ、地方公共団体に通知し、下記ホームページに掲載いたしました。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000033.html

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～

●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■

発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/>

○コラムの正解はこちらから→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/seikai2.pdf> f

■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■●●●■